

---

# 希望への意志

野鶴善明

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

希望への意志

### 【Nコード】

N4340K

### 【作者名】

野鶴善明

### 【あらすじ】

生きていれば、希望が残ります。希望はいつでも、自分自身のすぐそばにあるもので、あとは、それに気づくか気づかないか。希望への意志　これが人生の出発点となるものではないでしょうか。

今の世の中を悲しい思いで眺めている。

貧困と鬱病が蔓延し、子供たちの自殺が相次ぐようなこんな悲惨な二十一世紀がやってくるとは思いもしなかった。人の絆が破壊され、陰湿で殺伐としている。他者との出会いは人を信用するところからはじめたいと願うけど、なかなかそれができない。極度に気を遣い、よけいな気をまわしすぎてくたびれている人も多いことだろう。人間関係がおかしくなったのは、人間そのものがおかしくなってしまったからにほかならない。もちろん、僕自身も含めて。

長引く不景気と人間をモノ扱いする新自由主義経済システムの影響を受けて、派遣切りにあったり、仕事の契約が打ち切りになったりして、苦勞されているかたも多いようだ。

実を言えば、僕も現在失業中の身で、浪人生活を送りながら面接を受けている。感触のいい会社もあったけど、現場の部長や支社長がOKを出してくれても上層部の決済ではねられることもあるから、まだしばらく時間がかかりそうだ。

不幸中の幸いというべきか、物価の安い中国に住んでいるので、日本円にしてひと月に四万円もあれば衣食住と生活のすべてを十分にまかなえるからまだ余裕はあるし、市井のなかで隠者のようにひっそり暮すのも悪くない。なにより読書がすすむ。今まで気づけなっていたことにも気づくようになる。孔子はこのような暮らしを「陸沈」と呼んだ。陸で沈む。なかなか含蓄のある言葉だ。デカルトもソクラテスもこのような暮らしをしていた。今のうちに爪の垢でも煎じて飲もうかと思う。

もちろん、いつまでも陸沈生活を続けるわけにはいかない。採用が決まるかどうかは縁えにしの問題だから、そのうち縁のある企業で勤めることになるだろうと樂觀してはいるのだけど、やはり、見つからなければどうしようかと悩むこともある。

つらいことはいろいろある。

いじめにあつて苦しんでいる人もいるだろう。

鬱病にかかつて、絶望している人もいるだろう。

仕事に追いたたられて、疲れて果てている人もいるだろう。

仕事が見つからずに、不安で眠れない人もいるだろう。

だけど、どんな時でも、希望だけは捨ててはいけない。

生きてさえいれば、希望は自分のすぐそばにある。あとは、それに気づくか気づかないかだけの問題だ。こんな偉そうなことを言えたものではないのだけど、僕は悲しい出来事をいくつかくぐり抜けて、ようやくそんなことを学んだ。

人は、えてして、今自分の置かれた状況が絶対的なもので、永遠に変わらないものだと思いこみがちだけど、そんなことは決してない。

今の自分がすべてではない。

今現在、自分の置かれた環境がすべてではない。

まるでミイラのように、全身を布でぐるぐる巻きにされてしまったような閉塞感と圧迫感が時代を覆っているけど、この人を生きさせない時代はいつか動く。

東西冷戦中、永遠にそびえつづけるものだと思われていたベルリンの壁はあっけなく倒れた。黒人がアメリカの大統領になるなどは、夢物語としか考えられないことだった。日本でおきた政権交代も、以前は現実味と具体性をまったく欠いた話だった。

時代はめぐる。

時は移る。

自分の置かれた状況もいつかは変わる。

冬がすぎて春の花が咲くように、生きてさえいれば、人はなんども甦ることができる。人は生きながら、なんども生まれ変わることができる。

もちろん、ただじっと待っているだけでは、変化がやってくるはずもない。暗いトンネルのなかでうずくまっていたのでは、向こう

側へ抜け出ることにはできないのだから。

大切なことは、たとえ今がつらい状態だとしても、希望へ向かって一歩いっば進むことではないだろうか。変化は待つものではなく、自分で起こすものだから、自分のできる範囲のことをこつこつやってみることが肝心だ。急ぎすぎないように、だらけすぎないように、がんばるべき時は思いっきりがんばって。あまり疲れすぎてもいけないから、全体としてみれば、ゆっくり目くらいがちょうどいい。さて、どんな希望を持てばいいのだろう。

これこそが希望だという定番はない。希望や理想というものは人それぞれ違う。人の数だけ、希望の数がある。

希望は、自分自身で創るものだ。

自分の人生は自分で歩むものだから、自分の人生をほかの人に生きてもらうことなんてできない。

希望は、手探りしながら自分自身で手作りするからこそ面白い。

お仕着せの希望はいらない。

人や世間の希望に縛られるのもごめんだ。

百人百様のいろんな希望があるからこそ、この世界は彩り豊かで興味深いものになる。無限にある希望の種類とその無限の組み合わせ　それがあってこそ、この世は夢にあふれた世界になるのではないだろうか。

ただ一点だけ、人として大切なことだけは忘れてはいけないと思う。社会的なルールや処世術といった道徳の問題としてではなく、やさしさという良心の問題として。希望とわがままはまったく違うものだから。

時には自分の良心を裏切るようなことをして人を傷つけざるを得ないのがこの世の悲しい現実だけど、心にやさしさを忘れなければ、人としていられる。物欲、金銭欲、性欲、名誉欲、権力欲、そんな欲望がすべてだと勘違いしたすれっからしや、人の骨までしゃぶって相手を利用しつくすような鬼にならずにすむ。そんな人たちの希望は、希望とは呼べない。ただのエゴイズムであり、悪意であり、

くだらない欲得だ。なにかのセリフにあったけど、やさしくなければ人ではない。

人間は、ただ存在するだけでは不十分だ。

こんなご時勢だから、生き延びるために必死にならざるを得ないし、それは間違ったことではないのだけど、サバイバルを図るだけでも不十分だ。

なにより、自分自身の手で希望を創り、理想へ向かって歩く意志が大切だ。

その志さえあれば、さまざまな困難があつたとしても、たとえばこれから時代の闇がもつと濃くなつたとしても、人生は輝くものになるはず。悲しみに覆われたこの世界もきつと輝くはず。決してつまらないものにはならないだろう。

手作りの希望が語りかけてくるかなささやきに耳を澄まそう。希望を手放さず、希望を見つめて、しっかり生きよう。

了

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4340k/>

---

希望への意志

2010年10月8日14時25分発行